

在宅勤務で女性の家事、育児時間増？

役割分担設ける意識を

新型コロナウイルスの感染拡大で導入が進んだテレワークだが、在宅勤務の女性からは「家事と在宅勤務の境目がなくなり、家事、育児の時間が増えた」という意見も聞かれる。専門家は「仕事と家事、育児、プライベートをしっかりと区別する」ために、周囲の協力と理解が必要とアドバイスしている。

(吉田愛)

昨年4月からテレワークを取り入れた福井市内の会社に勤める40代女性社員は小学校高学年の子どもを育てながら、午前7時から午後6時半ごろまで在宅勤務している。通勤時間がなくなり、子どもとの触れ合いが増えたほか、作業に専念できストレスが減ったなど在宅勤務のメリットは大きいとした上で「家

事や育児に関わる時間は増えた」という。

出社していたころは家事や育児を義母と分担していたが、在宅勤務で「仕事のお昼休憩の時間も洗濯物の取り込みや、夕食作りをするように」なり、夕食の用意以外は全て自分でするようになった。

夫も日中は在宅の時があるが「気まぐれに参加する程度」という。「家にいるなら家事、育児は私がするもの」という意識が夫からは感じられる」と吐露する。

企業の人的資源管理を専門とする福井県立大の飛田正之教授は「福井は男女ともに、女性が

夫の協力、理解必要



女性が本音でテレワークなどについて話し合った交流会＝福井市のアオッサ

家事、育児をするという意識が根深い背景がある」とした上で改善には「仕事と家事、育児、プライベート時間の区別をしっかりとつけること」とアドバイスする。

生活にメリハリをつけるためには、家庭内での家事、育児の役割分担を設けるなど意識を変え、取り組みを積極的に取り入れて、としている。

「美容院などへ 行ける時間を」

福井、働く女性交流会

男性の育児取得、育児参加について、このほど開かれた働く女性が本音で話し合う福井市の交流会では、男性にいきなり育児の話をしてピンとこない場合が多いとして、例えば「美容院など私が心身を整える時間を設けて」などから始めること、との意見が出た。

交流会では、男性の育児取得には家庭だけでなく、会社の理解も必要とする意見が多数を占めた。また「育児参加して」と要望するより、「美容院などへ行けば私もリラックスできる」などの要望から、分担の意識を持つてもらいたいのではとの声が上がった。

交流会は全3回で、各回10、20人が参加。7月の1回目は理想の働き方をテーマに議論し勤務のフレックス制は仕事と家事時間の調整がしやすいとの意見などが出た。第3弾は「理想の管理職」で11月24日に開かれる。